

a 学校教育目標	郷土に誇りをもち、夢や目標に向かって主体的に取り組む子どもの育成	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命) 郷土に誇りをもち、夢や目標を語る児童の育成 【ビジョン】(自校の将来像) 郷土に誇りをもち、夢や目標に向かって主体的・協働的に課題解決に取り組む子どもを育てる教育活動を創造する。
----------	----------------------------------	----------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価計画				自己評価					改善方針		学校関係者評価				
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策等	f 評価項目・指標	g 目標値	10月	2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方針	l 評価				
					h 達成値	h 達成値					適正	不明	不適正	m コメント	
確かな学力の育成	自ら考え、自ら学びに向う児童の育成	基礎・基本の定着	学力向上に向けた取組の充実(授業改善・授業力向上・学力向上強化週間、桜山タイム)	①国語科(漢字・学期末の平均)・算数科(学期末)のテスト80点以上の児童80%以上 ②NRT各教科の標準偏差が昨年度以上(各学年)	①国・算のテスト80点以上の児童80%以上 ②全学年昨年度の標準偏差以上	①73.7% ②40%		①92.1% ②40%	C	①は、2つの学年が80%を超えたが、4つの学年で80%を割った。1学級あたりの児童数が多い学年で指導の徹底が難しい状況が見受けられる。②についても、2つの学年が昨年度の標準偏差を超えたが、2つの学年が昨年度の標準偏差よりも下回った。設問を最後まで解けていない児童も多い。	長期休業中に、NRTや全国学テの結果を分析し、今後の指導に生かす。①では、全員が主体的に参加できる形態での授業実施する。また、プレテストを行い、児童の実態を把握、対策をとった上で単元末テストを実施する。②では、桜山タイム「すすいすい」を計画通り実施し、基礎学力、集中力の向上を図る。「じっくり」で記述問題に取り組ませ、回答の仕方のポイントをつかませる。	○			
	学習意欲の向上(学びに向かう力の育成)	プロジェクト型学習の考えを基にした単元開発(カリキュラムマネジメント、課題発見・解決学習) 家庭学習強化週間の実施	単元開発(カリキュラムマネジメント、課題発見・解決学習) ①「将来の夢や目標をもっている」 ②「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」 ③「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」「学校がある地域のよさを知っている」	①80% ②80% ③80%	①87% ②86.6% ③78.8%		①109% ②108% ③98.5%	A	①は、全体的に高い数値だが、6年生の肯定的回答が低く、80%をわずかに割った。②についても、肯定的回答の数値は高いが、全体的に強い肯定よりも、弱い肯定が多い。③は、低学年で、肯定的回答の少なさが目立った。	①夢や目標をもつよさを味わえるように、具体的な目標を立て、自己評価や相互評価を通して達成感をもたせる。②探究的に取り組む実感をもてるように、生活や総合の授業で児童の思いや願いをくみ取った課題設定や活動をする。③地域のよさを発見できるように、地域の方や施設と連携した取組を推進する。	○			・桜山タイムの強化、継続により目標達成ができることに期待する。	
豊かな心の育成	生活指導項目の指導の徹底と体験活動の充実による豊かな心の育成	生活指導5項目の指導の徹底	あいさつ、時間厳守、ピカピカ無言掃除、右側歩行、靴揃えのうち、重点「あいさつ」の徹底	児童アンケートで、三原小あいさつレベル3(元氣よく・相手を見て・あいさつを返す)ができていると実感する児童の割合	90%	72.2%		80.2%	B	レベル3以上のあいさつができた実感する児童の割合は72.2%であり、目標値には届いていない。学年別にみると、高学年になるにつれ、元氣な声で挨拶をしにくいという結果が得られた。また、教職員の見取りとしても、挨拶を返すことが難しい児童は多く、自分から笑顔で挨拶ができる児童との二極化が進んでいる。	低学年では挨拶をすることやしてもらえぬことの嬉しさ、中学年ではマナーとして、高学年では人との円滑なコミュニケーションを図るため等、発達段階に応じた意義を学ばせていき、実践意欲をもたせていく。また、挨拶は本人の元氣がないとできにくいという視点から、楽しく登校できる学校づくりを土台として考え、日々の教育活動全体で意識していけるようにする。	○			・6年生が自主的にリーダーシップをとり、挨拶運動を行っていることが素晴らしい。このような児童が増えていくことを期待する。
	自己肯定感の向上	友達との関わりの強化 認め合う集団づくり	QUアンケート、学校生活意欲総合点の分布において、36点中28点以上の児童の割合	80%	77.7%		96.3%	B	結果は77.7%で、目標値にはわずかに届いていない。学年別で見ると、1年生＝74.3%、2年生＝72.9%、3年生＝88.6%、4年生＝75%、5年生＝85.9%、6年生＝67.5%であった。4つの学年で目標値に届いていないため、学年別での指導や学校を通しての指導が必要であると考えられる。	学級での取り組みとして、係活動や当番活動を充実させ、学級内での役割を意識させることで、認め合う集団作りをしていく。また、ソーシャルスキルトレーニングや構成的グループエンカウンターを取り入れ、友達同士の関わりを強め、集団を作っていく。学校全体の取り組みとしては、縦割り班活動・掃除を実施し、異学年集団の中での自分の役割を意識させ、認め合う集団作りをしていく。	○			・挨拶レベル3以上(3元氣よく、4自分から、5自分から笑顔で)を目標値に取り組んでいることがよい。	
健やかな体	健康教育と教育活動の工夫による運動能力・体力の育成	体力の向上	全項目の中から課題となる項目(「ソフトボール投げ」)の改善運動を全校で実施	全校のソフトボール投げ 県平均以上の児童が80%以上。(上半期:70%以上 下半期:80%)	80%					①準備運動(5分～10分)の中に、体ほぐし運動等を取り入れたり、体幹を鍛える運動を行ったりする。(腕立てふせやスクワット運動等) ②委員会以外遊びを推奨する企画に取り組み(大しっぽとり大会・ドッジボール等)、体を動かす習慣作りをする。	○			・課題であるソフトボール投げの改善に向けた取組が具体的でよい。 ・早寝、早起き、朝食は変わらないが、長年の課題であり、特にバランスのよい朝食は大変かもしれないが、児童及び保護者啓発を引き続き取り組んで欲しい。	
	家庭での生活習慣の定着	年2回の生活習慣実態調査の実施 保護者啓発活動の実施 児童への生活指導の実施	健康週間の調査で、全体の平均が4点以上である児童を80%以上にする。	80%	58.4%		73.0%	C	前年度の結果と比べて、全体の数値はあまり変化していない。朝食の摂取率は9割を達成しており、多くの児童が朝食を摂取できている。課題として、金メダルの数、起床、就寝時刻の数値が低いことがあげられる。起床、就寝時間については、家でのクロームブックやゲームなどの画面を見る時間が長くなっていることが原因として考えられる。	課題の改善方策として、金メダルの数を増やすために、食育劇を実施し、劇を通してバランスよく食事を取ることの重要性を児童に伝える。栄養教諭や養護教諭と連携して、学活等の時間にバランスの良い食事についてや睡眠などの生活習慣について学習する。	○				
信頼される学校	保護者・地域から信頼される学校づくり	地域を繋ぐ教育活動の工夫	①地域の行事への参加等(ゲストティーチャーの招聘、幼・保・小・中の連携) ②学年便りの作成 ③HPの更新	①各学年、学期に1回以上 ②③月に1回以上	100%	①100% ②100% ③33.3%		①100% ②100% ③33.3%	C	①1年生・幼保小連携1回、2年生・町探検3回、3年生・お菓子めぐり1回、4年生・やっさ祭振興協議会7回、5年生・三原漁協1回、6年生・児童館、市役所3回で、総合的な学習の時間を中心に計画的に実施することができている。 ②月に1回のペースで、各学年で行っている学習内容の話題を中心に発行することができている。 ③学校便りや学年便りをすぐるで配信するため、HPを更新できていない月がある。	①引き続き、児童の主体性を大事にしなが、地域との交流を図り、郷土愛を育てていく。 ②学校での児童の様子が伝わるように内容を工夫していく。 ③情報委員会が、各学年の部屋に児童の写真等を掲載し、学習活動が伝わる様に計画を立て、定期的に更新できるようにしていく。	○			・よりよい学校運営と勤務時間削減の関係はなかなか難しい中で、時間外勤務の短縮に向けて努力されていることが分かった。
	働き方改革(次世代の働き方への体制づくり)	計画的な時間外勤務の短縮 業務改善の推進	時間外勤務月45h以下を6か月以上実施	100%	40.7%		40.7%	D	時間外勤務月45h以下を6か月以上達成できた職員は40.7%で昨年度比+8.6であるが、各主任や児童数の多い学級の業務量減については課題が残っている。 職員全員の時間外勤務月平均45h以下を達成できた月は6か月より4月平均は昨年度比-4hで効果が伺えた。	毎月第一火曜日を5時間授業とし、各種会議・委員会を実施することで授業準備、提出物の点検等の時間を確保する。また、各主任の業務量削減に向けて、月1回、短時間の4部会を設定し、各部の進捗を確認し、部内で仕事を調整する。	○				

【j:自己評価 評価】
A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達成)<100 C:60≦(もう少し)<80 D:(できていない)<60

【l:学校関係者評価 評価】
イ:自己評価は適正である。 ハ:わからない。
ロ:自己評価は適正でない。